

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 アート体験プログラム開催事業費（R8分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-8493(内3122)

E-mail : c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 16,285千円 (現計予算額： 0千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要 求 額	16,285	8,098	0	0	0	0	0	0	8,187
決 定 額	16,285	8,098	0	0	0	0	0	0	8,187

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

ぎふ美術展、Art Award IN THE CUBE、アート体験プログラムが三位一体となって取り組んできただことで、幅広い世代において創作活動へのきっかけづくりとなり、質の高い作品づくりに寄与してきた。

アート体験プログラムは、参加者が主体的に活動に参加し、技術や知識を高めたり、参加者同士が一緒に鑑賞したりすることで、自分一人だけでは得られない刺激を受けることができる。多様なプログラムにより、一層参加者の五感を刺激する体験を提供することが期待できる。

(2) 事業内容

「アート」を身近に感じ、親しみ、楽しみ、参加できるきっかけとなるよう、県民の「裾野を広げる」「技術・知識の向上を図る」「ぎふ美術展やAAICなどへの参画を目指す人材を育成する」という3つを視点に、体験型プログラムを年間通じて全県域で展開している。

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県の文化振興の主要プロジェクトである「ぎふ芸術祭」の柱の一つとして実施するものであり、全額県負担とする。（地域未来交付金）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	11,058	
補助金	5,138	
旅費	89	
合計	16,285	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

文化芸術活動へ主体的に参加できる県民を増やし、人と人、人と作品をつなげ、創造的な時間が生まれる場としての「アート体験プログラム」の認知度や満足度を高めていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R29)	R8年度 目標	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
①講座等参加率 (単位：%)	0	95	95	95	95	—
②学校アウト リーチ事業の満 足度（各講座の 平均）(単位：%)	0	95	95	95	95	—

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4 年度	5回目の開催となった令和4年度もコロナ禍での開催となったが、感染症対策を万全にして開催した。社会全体が落ち着き始めた頃、県内五圏域のみならず隣県（愛知）にも事業及び開催プログラムの広報を積極的に行った結果、多くの参加者を集めることができた。
	指標①目標：85% 実績：89% 達成率：105%
令和5 年度	コロナ禍では大きな声を出して笑うこと、相手の表情を読み取りながらコミュニケーションをする機会が減少していたが、マスクを外し自分自身の思いを言葉や表情、身体を使って表現することの大切さを参加者がそれぞれ体感できた。伝統工芸と道具の関連性を含んだプログラムを実施した。
	指標①目標：85% 実績：71% 達成率：83%
令和6 年度	通常の講座に加え、「清流の国ぎふ」文化祭2024の特別企画として県庁20会でのワークショップやパフォーマンスを開催したり、これまでの集大成として過去の講座参加者や講師の作品展示会やクロストーク等のイベントを開催するなど、より多くの方が参加・鑑賞する機会を提供することができた。
	指標①目標：85% 実績：95% 達成率：112%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	参加者アンケートでの満足度が高く、例年定員を超過し、抽選となる人気講座も複数あり、事業そのものが定着しつつあるため、事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	老若男女問わず、幅広い世代での参加が見られる。講座参加者の満足度も高いため、次年度も参加するなど美術への関心が高まっている。参加者の中には、「ぎふ美術展」への出品者・入賞者が出るなど、相乗的な効果も見られる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	様々な分野の講座が企画されていることや、県内各所での開催ということで、県内の関係諸機関への広報活動に力を入れ、さらに多くの人に對し、魅力的な事業であることをPRしていく。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

徐々に認知度や満足度がに高まり、定員を大きく超える講座があつたり、「ぎふ美術展」に出品する参加者がいたりするなど一定の効果は見られる。今後は、繰り返し参加している方だけでなく新規の参加者も獲得したり、子どもたちが芸術家との関わりながらアートに触れることができる機会をつくったりと、より一層魅力的な各分野の実技講座を行っていく。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

これまでのよう広く県民から参加者を募る実技講座に加え、学校に講師（芸術家）を招いてアート体験を行うアウトリーチ講座を開催し、より幅広い年齢層の県民がアートに触れることができるようとする。